

第 3 回瑞浪市総合計画審議会 会議録

日時：令和 4 年 8 月 30 日（火）13:30～15:05

場所：瑞浪市役所本庁舎 2 階大会議室

次 第

1. 会長あいさつ
2. 議 事
 - (1) 第 2 回瑞浪市総合計画審議会会議録について 資料 1
 - (2) 第 6 次瑞浪市総合計画進捗状況評価 資料 2
 - (3) 第 6 次瑞浪市総合計画基本構想附帯決議に対する対応について 資料 3
 - (4) 第 7 次瑞浪市総合計画の策定に係る各種アンケート調査結果報告書 資料 4
3. その他

出席者

出席委員

鈴木圭子 委員 大山理晴 委員 渡辺隆夫 委員 勝股清治 委員 安藤八重子 委員
山口富子 委員 井貝順子 委員 福永泰子 委員 中山千鶴 委員 小池 誠 委員
林 一子 委員 萩尾英明 委員 稲垣昌克 委員 土屋誠治 委員 熊澤清和 委員
古田成志 委員 大宮康一 委員 森島嘉人 委員 東恵理子 委員 小木曾めぐみ 委員
玉川幸枝 委員 [名簿順]

欠席委員

小島博和 委員 水野勝人 委員 威知謙豪 委員 [名簿順]

【瑞浪市】

瑞浪市理事兼総務部長 正村 和英

【事務局】

加藤 昇 (企画政策課長)
津田 良介 (企画政策課企画政策係長)
三浦 啓輔 (企画政策課企画政策係)

【第 7 次瑞浪市総合計画策定業務委託事業者】

内田 真 (株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所)
本間 裕之 (株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所)

議 事

1. 会長あいさつ

【会 長】

こんにちは。本日も進行を務める岐阜大学地域協学センターの大宮である。ご多用のところご出席いただき心より御礼申し上げます。前回の第 2 回審議会では現行の第 6 次瑞浪市総合計画の進捗状況の評価方法やビジョンブックの作成についての説明を事務局から受け、ご議論いただいたところだ。今回の第 3 回審議会では第 6 次瑞浪市総合計画の進捗状況の評価結果や各種アンケート結果を報告いただくので、その情報を皆様で共有しつつ議論していきたいと思う。活発な意見交換、議論の場としていきたいと思うので、ご協力のほど、よろしく願います。

2. 議 事

【事務局】

以後の進行を大宮会長に願います。

【会 長】

議事に入らせていただく。

(1) 第 2 回瑞浪市総合計画審議会会議録について事務局より説明を願います。

(1) 第 2 回瑞浪市総合計画審議会会議録について

【事務局】

資料 1 6 月 24 日開催の第 2 回瑞浪市総合計画審議会会議録の案である。委員の皆様の承認後、市ホームページで公表する。発言された委員のお名前は記載せず委員と表記している。ご確認を願います。

【会 長】

第 2 回審議会の会議録をご確認いただき、訂正を含めご意見・ご質問があれば挙手をお願いする。

【会 長】

当時の様子が読み取れる会議録になっていると思う。ご自身の発言について何かあればこの場で発言いただきたい。

特にご意見等はないので第 2 回瑞浪市総合計画審議会会議録についてはこれをもって確定とし、市民に向けて公表する形になる。ご了承のほどよろしく願います。

では (2) 第 6 次瑞浪市総合計画進捗状況評価について事務局より説明を願います。

(2) 第 6 次瑞浪市総合計画進捗状況評価

【事務局】

【資料 2】 第 2 回の審議会にて、第 6 次瑞浪市総合計画の進捗状況評価の方法について説明したが、改めて要旨を説明させていただく。第 6 次総合計画の計画期間は令和 5 年度までだが、進捗状況の評価は 9 年目にあたる今年度、令和 3 年度の実績や市民アンケート結果、各担当課の評価に基づき、第 6 次総合計画の進捗状況評価を行った。

本日は、その進捗状況を取りまとめたものの報告である。

1 ページから 3 ページにかけては、評価方法について記載している。「人口・世帯の目標及びまちづくり指標の評価」、「基本方針別評価」、「施策別進捗状況評価」を 4 段階で評価し、実績値の前年度比を上向きや下向きの矢印で示している。

4 ページ目以降が進捗状況評価となる。4 ページでは、「人口・世帯の目標及びまちづくり指標の評価」の結果を示している。「(1) 人口・世帯の目標」として 40,000 人、15,900 世帯としていたが、目標値を下回っている状況である。「(2) まちづくり指標」では、市民アンケートの結果を示しているが、「住みよさ指標」、「定住指標」、「市政満足度指標」のいずれの指標も目標値を下回っている。

5 ページが基本方針別評価の結果を示している。5 ページ下表をご覧くださいと、基本方針別評価はマトリックスで表したように概ね順調という結果となった。指標評価については市民アンケートの結果や施策ごとの目標において、施設等の利用者数などで設定しているものが多く、長引くコロナ禍の影響により、目標指標に対する実績値が、コロナの蔓延前に比べて著しく減少していることが大きな要因であると推測している。進捗状況評価では、各施策に紐づけられた事業の進捗状況を点数化しているが、どの方針の評価についても 80 点以上となっている。事業の実施自体が必ずしも目標指標の達成につながっていない部分を受け止め、第 7 次総合計画の検討課題となった。

6 ページから 9 ページが、各方針別の施策ごとの評価となっているが、今回、各施策において得られた成果や担当課にて整理した積み残し(継続)課題をさらに分析し、第 7 次総合計画に反映させていく。

10 ページから 57 ページが施策別進捗状況評価となっており、各方針別の評価のさらなる詳細を示している。58 ページ以降は、第 6 次総合計画において 3 プラス 1 として重点的に実施しているまちの活性化や地域コミュニティなどの「協働」の部分について、今後もさらに重要視されていくものと考え、施策別の協働の状況を文章にまとめ、併せて今後の協働の可能性について A～D の 4 段階で記載している。今後の協働の在り方について、第 7 次総合計画を検討する上での基礎資料としていく。

全体として、市民アンケートの数値を目標指標としているものは、指標の多くが目標値を下回る結果となっている。これは、長引くコロナ禍の影響により、行事等が中止若しくは延期され、今まで行事等を通じて市民と行政の情報共有・情報発信の場となっていたものが、一時的に弱くなり、アンケート結果として表れてしまったのではないかと推測する。また、

今後こうした状況下でも市民に安定して情報を届けられるよう、今まで以上に積極的な情報発信を心掛けていく必要があると考えている。

説明は以上とさせていただきます。

【会 長】

ただいまの説明に対して、ご質問・ご意見等あるか。

【委 員】

4 ページ「人口・世帯の目標及びまちづくり指標の評価」は「あまり順調でない」という評価になっている。通常言われているように市の人口が 5 万人以下では政府がいろいろなことを認めてくれないという状況がある中、立てた目標も評価も涙が出るようなものだが、第 7 次総合計画を策定するにあたって、市としてどのような思いを持っているのか。

【事務局】

人口は全国的に減少傾向で、本市も 10 年前は 4 万人であったが現在は 3 万 6 千人後半を推移している。社人研の推計値ではこれからどんどん減っていく方向である。ただ、自治体がなくなるわけにはいかないので、この 3 万 6 千人の税収を各事業に配分し、可能な範囲で行政活動を維持していこうと考えている。第 6 次総合計画では 4 万人という目標を立て推進力を活かしたかったが、第 7 次総合計画は現実路線の計画にしたいと思っている。

【委 員】

8 ページであるが、教育・子育ての点数が非常に低いと思う。他のページを見ても最低点が 30 点であるが、これは意図的な設定なのか。

出生率が上がっている自治体は子育て・教育に特化した行政運営をしているという話を聞く。保護者の中でも現在の瑞浪市の子育て・教育に不満を持つ方が多い。先生方の努力もあり個別の指導に関するものではないが、全体的に子育てがしづらいという意見を聞くことがある。人口減少について諦めるのではなく、他の地域から瑞浪市に流入していただくような施策が必要だ。そうでないとネガティブな議論ばかりになる。第 7 次総合計画は子育て・教育についてもっと推進力のある行政運営をしていただきたい。

【事務局】

教育関係の評価は意図的に 30 点なのかということについて回答する。3 ページに評価方法の記載があり、これら 4 つの区分で評価点を決定したところだ。教育関係の具体的な指標は 41 ページからになる。例えば 43 ページ「社会教育」の指標の一つに「公民館の利用者数」とあるが、コロナ禍で貸館停止が多くあったことなどから数値が伸びなかった。このように教育関係の指標では、利用者数や参加人数で評価する指標がほとんどで、コロナ禍による影響をまろに受けたことから、いずれの指標も評価点 30 点となっている。

教育・子育て関係の支援の充実については第 7 次総合計画でも重要視していきたいと考えている。市民アンケートの中でも子育て支援を充実してほしいという声が多く挙がっていたので、第 7 次総合計画に反映していければと思う。

【会 長】

委員がこれまで耳にされた不満・要望について差し支えなければお聞かせ願いたい。

【委 員】

コロナ禍が 3 年目に突入し、子どもたちはいろいろな制限の中で生活している。学校教育を受けられる時代は今しかなく、その制限を大人が“仕方がない”で済ましては子どもたちの成長にとってマイナスになる。実際、自己肯定感が低い子どもが多い。自信を失い前向きに行動することが少なくなっている。コロナ禍の波に吞まれてしまっている子どもが多いわけだが、これを“仕方がない”で済ませず、なんとか方策を打つ必要があると思われる。

通学路の改修の要望を市に出してもなかなか実施されないという話をよく聞く。保護者が PTA 活動に活発に参加しても反映がないと活動しても無駄という意見も多い。市から良い回答をいただけないと PTA 活動も後ろ向きになってしまうということも聞く。保護者から出た話を前向きに検討いただければと思う。

【会 長】

他にご質問等あるか。

【委 員】

2 点ほどお尋ねする。5 ページに「基本方針別評価」ということで総合的にまとめられているが、個々の部署において、末端も含む全員がこれについて反省しているのか。上層部だけで考えて終わるのではなく、実務作業をしている職員まで課題を認識しているか。「将来都市像の実現に向けて施策を展開していく必要があります」と書かれているが、具体的な内容が無いことが気になった。

また、目標値の捉え方がよく分からなかった。漠然と考えたのか。32 ページ「ほ場整備面積」の目標は 406.5ha となっているが、これはどのようにして決めたのかと思う。というのは、瑞浪市の農地面積は 798ha あるのだが、その半分しかないからである。それだけの農地を守れば農業政策が成り立つと考えているのか。目標値の妥当性、根拠というのが気になった点である。

【会 長】

1 点目は今回の評価について職員がしっかりと意識しているかということ。2 点目は農業分野の目標値を含め、その設定の仕方についてということである。回答いただきたい。

【事務局】

評価についてご説明申し上げます。各担当課長が施策に紐づく事業をすべて評価しており、それを一つずつ積み上げた結果が今回のこのような形である。以前の会議でお示した評価検証シートを集約し進捗状況評価という形でまとめたもので、ここで末端の意見を吸い上げている。

目標値の設定については、おおむね実績値からの伸び率を考慮して決めている。ほ場整備は国の補助金を活用して行う事業のため、全体の面積は委員のおっしゃるとおり 800ha 近くあるが、実績値に基づくものと計画に基づくものそれぞれで目標値を設定している。

【会 長】

分野によっては国や県との連携の中で目標値を設定しているということで、統一した設定の仕方は難しい状況かと思う。

もう 1 点「将来都市像の実現」について、ここが分かりづらいというお話もあった。第 7 次総合計画の策定にあたりどのような都市像を目指しているのか、簡潔に説明いただければ有り難い。

【事務局】

現在の将来都市像は「幸せ実感都市 みずなみ」である。今回の進捗状況評価を見ると、できているものとできていないものがあり、課題が浮き彫りになったものもあるので、それらを総合的に踏まえて将来都市像を決定していくことになる。先ほど委員もおっしゃっていたとおり、子育て支援や子どもに関する意見を市民アンケートや意見収集ボードで多数もらっているので、それも加味しつつ、第 6 次総合計画の反省点とともに第 7 次総合計画に向けて皆様の意見を集約し将来都市像を決めていく。現段階では申し上げにくいですが、皆様の心に刺さる将来都市像を描ければと思う。

【会 長】

将来都市像に関しては一方的に事務局が決めるのではなく、皆様のご意見やお気持ちを踏まえて、共通して良いと思えるような都市像を描ければと期待している。

他にご質問等あるか。

【委 員】

52 ページ「行財政運営」は「達成」の評価が多いが、その中の「市民ニーズに合った事業が行われ、まちが良くなってきていると思う市民の割合」は減っている。「市債残高」は順調に減っており財政状況は良くなってきているとは思いますが、それに伴って市民の満足度が下がっているので、ここを見直されてはどうか。財政的には達成しても市民は不満を抱えているからだ。

「経常収支比率」を達成する必要があるかと思うが、コロナ禍という特殊な状況において

は行政が雇用を創出する、あるいは事業の実施により瑞浪市全体を活性化していくことに予算をかける方がよい。子育て・教育、地域の振興という部分においては、ここ 3 年、民間の力が非常に弱くなり、厳しい状況が続いている。財政運営が達成というのであれば市民の満足度が上がる施策を行わなければならないと思うので、その辺りも第 7 次総合計画で検討いただきたい。

【事務局】

「市民ニーズに合った事業が行われ、まちが良くなってきていると思う市民の割合」とは市民アンケートの結果であるが、やはり市の情報発信・情報共有の弱さがここに表れていると思う。着実な財政運営を行っているという結果が出ているが、それが市民の方に伝わっていない。財政基盤がしっかりしていないことには行政サービスができなくなる。したがって、財政基盤を強固にしたうえで優先順位をつけて市民サービスを行っていくというのが市役所の基本になる。この辺りを広報みずなみや SNS で発信しているが、市役所業務に興味がない方も多いため伝えきれていない。さらにはコロナ禍ということで、すべての指標において下振れの結果が出ている。コロナ禍であるためこのような結果だと分析しているが、その中でも市民の皆様満足していただけるような情報発信は、第 7 次総合計画に向けての課題と捉えている。

【会 長】

コロナ禍であるためネガティブな方向で意見が出ることは、いずれのアンケートでも同じかと思う。どの市町村も行政改革を進めているが、私の感触では財政的に健全な市が適切なサービスを提供できるかという疑問が残る。なぜなら財政的に健全というのはかなり人件費を削った結果であり、人が減れば市民へのサービスが行えなくなるからで、そのバランスが難しい。人件費を削り財政が良くなった反面サービスは手薄になる、というアンバランスな状態になってしまうこともありうる。

先ほど言われていたように情報発信・情報共有が重要である。市から発信される情報を市民が受けて状況を理解することも必要かと思う。

(2) 第 6 次瑞浪市総合計画進捗状況評価については以上とする。この評価についてご了承をいただけたものと思うが、よろしいか。

(異議なしの声)

【会 長】

では次に (3) 第 6 次瑞浪市総合計画基本構想附帯決議に対する対応について事務局より説明をお願いします。

(3) 第 6 次瑞浪市総合計画基本構想附帯決議に対する対応について

【事務局】

資料 3 附帯決議とは、市議会が基本構想を議決するにあたり、市に対して留意事項を示したものである。この附帯決議は、第 6 次総合計画の基本構想を議決するにあたり、議会より提出されたものである。その際、5 つの点について決議があったので、市として現在の対応状況について、ここで整理したものである。

1 番目は、市民と行政の協働によるまちづくりを目指すという基本理念が示されているが、実際の行政運営に当たっては、具体的な施策を示し協働の趣旨が広く市民に理解されるよう配慮すること、というように示されている。これに対して市は、平成 26 年度からまちづくり推進部を創設し、市民協働課にて、まちづくりの支援を行っている。また、平成 27 年 3 月にはまちづくり基本条例を制定し、まちづくりに関する原則及び仕組み、市民の権利及び責務、議会及び行政の責務等を定め、市民主体のまちづくりを推進している、というように回答している。

2 番目は、基本構想の計画期間において、人口 4 万人を維持すると示しているが、厳しい目標値と捉え、所期の目的が達成できるよう取り組むこと、といただいた。これについては、令和 5 年の目標人口を 4 万人とし、これは高い目標ではあるが、少子化対策や定住促進施策などの人口減少対策を総合的に実施することにより人口減少を抑制し、計画当時の人口を 10 年後も維持したいという考えであり、この目標を設定することで、人口減少問題に対する各種取組みの推進力としていくこととしたものである。人口減少問題は、画期的な解決策はないが、引き続き、総合的な取組を行い、人口減少を抑えるものとしている。

3 番目は、まちづくりの基本方針について、示されている内容が実現できるように、不断の見直しを行うこと、といただいている。これについては、6 つの基本方針に紐づいた各事業を毎年度ローリング方式で行う実施計画で評価・検証しており、基本方針に示した方向性の効果を最大限発揮できるよう日々見直し、次の年度へとつないでいるものである。

4 番目は、土地利用構想において、中心市街地及び周辺地域においても活力ある土地利用が進むよう十分配慮すること、といただいた。中心市街地では瑞浪駅周辺再開発事業を進めており、周辺地域においては、大湫町の丸森を観光案内所として、新森を古民家カフェとして整備してきた。また、旧陶小学校跡地は企業誘致により有効活用を図っている状況である。今後、道の駅整備やきなあた瑞浪でのバーベキュー施設の整備を計画しており、市内各地において将来の地域拠点、交流拠点として活力ある土地利用を進めている状況である。

5 番目は、基本構想実現に向けて、経常収支比率及び実質公債費比率など危険域に入らぬよう計画的な進捗を図ること、といただいた。直近の令和 2 年度は、それぞれ 82.4%と 3.0%と双方改善しており、引き続き必要な事業は積極的に取り組みつつ、歳入歳出のバランスに配慮した財政運営に努めていくとしている。

以上、附帯決議についての説明とさせていただきます。

【会 長】

この附帯決議に対する対応とは、議会への回答資料という認識でよろしいか。

【事務局】

当初出た附帯決議に対して、市側の評価を示す必要があるため資料を作ったという背景がある。今後の市議会でこの資料を提示し説明する。

【委員】

この資料の中で私が一番注目するのは人口問題である。目標を設定することで自分たちの士気を高めようという気持ちは感じるが、市民へのアピールが全くない。市民が広報を読んでいないと思われるかもしれないが、それは見づらいからだ。それも含めて市民のニーズに答えられていないと思う。先ほどあった PTA からの要望について具体的に回答できているのか。資料に「人口減少問題に対する各種取組みの推進力としていく」とあるが“人口減少の中でも財政を健全化し皆さんのニーズに合った事業をこれだけ行っている”と市民にもっとアピールしていかなければならないと思う。第 7 次総合計画では特にその点に注意してもらいたい。

【事務局】

おっしゃるとおりだと思う。伝達に最適な方策をこれまでも模索しているが、市民の方に市としての思いを伝えられるようにしたい。今回初めての取組になるが、総合計画の冊子をビジョンブックという見やすいものに変えようと思っているので、視覚に訴えかけられるかと期待している。現段階では広報のルートを通じて全戸配布を予定しているので、このビジョンブックを活用しつつ、第 7 次総合計画ではご指摘のあった部分を少しでも改善できるよう努めていきたい。

【事務局】

補足になるが、ご指摘の人口減少についてはさまざまな取組を総合的に進めており、直接的には移住促進奨励金の交付等も行っている。結果としては目標の 4 万人に届かなかったもののそれなりの効果は上がっており、社人研の推計よりは上回った。引き続き人口減少対策をしっかりと行うとともに、企業誘致等いろいろなことに総合的に取り組み、検証する中で第 7 次総合計画に反映していく必要があると思っている。先ほどご意見のあった子育てや教育環境もそうであり、公共交通は毎年課題としてあがってくるので、それらについてももしっかり取り組んでいく。

【会長】

人口に関しては難しいところがあり、減るのは仕方がない。減少率をどれだけ抑えるかが行政としての対応かと思う。教育環境、交通の便、暮らしやすさ等複数の要因が人口の増減に関わってくる。正直なところ人口増加というのは難しい。昔は子どもが多かったが今は少

子化が背景にあるからである。現代に合った子どもの数を捉えたうえで、市の人口に関する取組を評価する必要がある。

情報についてであるが、市からの発信を受けるだけでなく市民自ら積極的に取りに行く姿勢が重要かと思う。

また、先ほど申したように財政健全化のための人件費削減、つまり人手が少なくなる中では協働が大切である。市と市民が一緒になって地域課題に取り組む姿勢が今後問われてくる。要するに、市が一方的に取り組むのではなく住民がどのように自分たちの地域を良くするかという意識が重要になるかと思う。市役所の取組を市民に理解いただく努力も必要だが、その一方、市民の義務として自分たちがどのように市に関わるかといった方向に意識を持っていくべき部分もある。そういった意識が双方あってこそ、未来のつくり方の話になってくる。第 7 次総合計画では市役所の一方的な取組だけではなく協働で関わるとよいと個人的には期待しているところだ。

【委員】

そもそも、この附帯決議というものは何であるか。

数回の会議で第 6 次総合計画の点検作業を行うのは困難ではないか。10 年間の計画をつくるわけだが、企業であれば単年で内容を精査する。人口にしても 4 万人を下回った時点で修正した方がよいと思う。ずれが出てくる影響で市民のニーズと離れていく部分もある。10 年間の計画をつくるのであれば単年ごとに会議を開き、しっかり検証すべきだ。市議会でもこのような検証を行うのかということも併せてお聞きしたい。

【事務局】

まず、附帯決議について説明する。総合計画の策定にあたっては議会の承認が必要で、その承認はいただいた。ただし“基本構想に記載していることを着実に進めていくためこういう点には注意が必要、この部分についてはしっかり取り組むように”という議会としての意思が表明される。それが附帯決議である。

評価についてであるが、毎年度実施している。その中で目標数値が上回ったものについてはさらに上向きの目標を立て、計画どおりにいかないものは数値目標を下向きに見直している。人口についてもいろいろな議論があり、目標 4 万人というのは国の推計値から見てもほど遠いことは承知しているが、この目標を立てた以上は移住・定住、企業立地等総合的に取り組み、減少を抑制したいとの強い思いがあった。この総合計画にぶら下がる総合戦略でも 4 万人をベースに人口ビジョンをつくったが、達成することができなかった。ただし、推計値より人口減少が抑制された面もあり、それは企業立地の成果かと思っている。毎年見直しは行っているが、人口という大きな目標は守りたかった。

【会長】

人口に関しては志高くというのが市職員に共通する認識かと理解している。

【事務局】

もう 1 点、議会側がどのように評価するのかというご質問に回答する。議会側の評価は事業評価になる。議会から毎年数事業を挙げていただいて市役所がその事業について説明し、議会が評価を出すという取組を実施している。それと同時に市民アンケートの結果もお伝えしている次第だ。

【会 長】

この総合計画は議会を通過して初めて実施できるのだが、承認の際に議会から附帯決議が出る。附帯決議に対する対応を簡単に言えば議会への回答ということで、それについてご審議いただいたということである。

(3) 第 6 次瑞浪市総合計画基本構想附帯決議に対する対応については以上とする。この対応についてご承認をいただけたものと思うが、よろしいか。

(異議なしの声)

【会 長】

では次に(4) 第 7 次瑞浪市総合計画の策定に係る各種アンケート調査結果報告書について事務局より説明をお願いします。

(4) 第 7 次瑞浪市総合計画の策定に係る各種アンケート調査結果報告書

【事務局】

資料 4 第 1 回の審議会でも説明させていただいたが、第 7 次総合計画の策定にあたって、市民の方などの意識等を把握し、その結果を十分に踏まえた計画づくりが進められるよう基礎資料を得ることを目的として、市民、小・中学生、企業、職員を対象に各種アンケート調査を実施した。この度、各種アンケートの結果をとりまとめましたので報告させていただきます。

結果は 1 ページの調査概要のとおりである。

市民アンケートは 2 ページから 84 ページまでとなるが、運動や健康づくりなどの関連項目で上昇傾向がみられるものの、全体として下振れ傾向となっている。やはり、長引くコロナ禍における生活により、多くの市民が健康・医療に不安を抱えているものと推測される。また、経済活動の停止やイベントの中止・延期などにより、市民同士や市民と行政の交流の機会が大幅に失われたことから、情報発信・収集面でコロナ前と比べ、その力が弱まり、市の取組が市民に見えにくくなり、厳しいアンケート結果となっていると推測している。こうした事態を踏まえて第 7 次総合計画を検討していく必要があるものと考えている。

小・中学生アンケートは 85 ページから 166 ページまでとなる。教育委員会の協力により、タブレットを活用したアンケートを実施した。実施にあたり、10 年、20 年先の瑞浪市の姿についての市長メッセージ動画を作成し、各学校に配信した。小・中学生ならではの意見等

をうかがうことができ、若者意見の一つとして、第 7 次総合計画に反映していきたいと考える。また、本アンケートを実施したことで、将来を担う若者向けに総合計画とは何か、市がどんなことをしているのかの PR の機会となったことは大きいと考える。

企業アンケートは 167 ページから 173 ページまでであるが、企業の取組や市の産業振興に対する意見・提案をいただいた。また、市内企業向けにはアンケートのほか、経済関連事業者との市長と語る会や、商工課において市内中小企業との意見交換も開催している。そちらからの意見収集も行っているため、併せて第 7 次総合計画に反映していきたい。なお、市外企業については名古屋圏域の上場企業 30 社を抜粋してメールによりアンケートを依頼したが、回答は得られなかった。

職員アンケートは 174 ページから 187 ページまでとなる。市職員が内部からみた 10 年後の施策の方向性や重要性などを把握することができ、内部の意見として整理し、第 7 次総合計画の基礎資料とする。また、併せて分かったこととして、総合計画に対する認識の低さが課題としてあらわれた。総合計画が市の最上位計画であり、市民と行政のまちづくりの指針であることを全職員が認識できるような取組が必要であると考え。全職員が各分野の今後 10 年間の方向性を作り上げるといふ思いで向き合っていくよう取り組む。

これら 4 つのアンケートをさらに分析していき、第 7 次総合計画に反映していく。以上である。

【会 長】

膨大な量なので、特色があるところを 1、2 点紹介いただければと思う。

【事務局】

市民アンケートについては、令和 2 年度からコロナ禍ということで引き続き回答率が低い印象である。住みやすさや普段からの健康づくり、運動等についての設問を設定しているが、住みやすさに関するものについてはポイントが全部下がっている。その一方、健康づくりや運動に関するものはポイントが上昇もしくは横ばいが多く、やはりコロナ禍で不安を抱えているということで健康維持の意識が高まっているように感じる。行政としてそういったところに対する支援ができればと個人的には思う。

小中学生アンケートについては、個性ある意見をいただいた。これを機に市との関わりを持っていただければと思う。学校にお願いして市長のメッセージ動画を小学 5 年生と中学 2 年生に見てもらった。市長がどういう人か、子どもたちはよく知らないだろうと思われる中、PR につながったと感じている。

企業アンケートについては思いのほか伸びず残念に感じている。回答率をもう少し伸ばせなかったかという反省点もある。「ビジサポメール」という経済関係の市内事業者が登録しているメールマガジンがあり、その中の 250 社ほどにアンケートの周知はできたが、返答は 10 件であった。アンケートの構成として記述式が多く、回答しにくかったのではと思っている。その中でも積極的な意見をいただいた部分はあり、また同時に「市長と語る会」に

において各企業を盛り上げていきたいという意向は聞いているので、アンケートを含め総合的に第 7 次総合計画に反映していきたい。

職員アンケートについての回答率は 87.7%であった。総合計画を全編読んだことがない職員が多いという衝撃的な結果が出た。職員が総合計画の全容を知って、初めて市民の方に伝わると思うので、内部にも周知していきたい。

【会 長】

個人的には小中学生アンケートの「瑞浪市のまちが好き」を大切にしていきたいと思っている。10 年後は小学 5 年生、中学 2 年生ともに成人している。これから社会に出て活躍していく子どもたちが 10 年後どういう気持ちになるかは分からないが、今の気持ちを大切にできるような総合計画になればと思う。

【委 員】

民生委員をしているので高齢者の声はよく聞くが、働き盛りや若い母親のことはあまり知らない。瑞浪市は子どもに良いまちという意見も多いが、これを読むとそうでないような気がする。職員アンケート 187 ページの 31 番に、アンケートはもっとターゲットを絞るべきという意見がある。それに対応するかのように市民アンケート 72 ページの 81 番に障がい児を持つ親の困りごとが書かれており、83 ページの 170 番には夫婦ともに障がいを抱えているため子どもをつくれないとある。ターゲットを絞ってのアンケートが必要だと思う。66 ページの 16 番に「市には期待していません」、同じく 66 ページの 12 番には 80 代以上の意見として「こんなものだとあきらめて、生活しています」とある。瑞浪市に住んでいて良いことがなかったというのが悲しい。75 ページの 117 番に健康な状態のときは住みやすいが具合が悪くなると住みにくい場所が変わるといような意見もある。小中学生アンケートが面白かった。今後の瑞浪市のキャッチフレーズ案が並んでいるが 158 ページの 250 番「想像の先へ みんなで作り上げる瑞浪市」は大人の頭では思いつかないフレーズ。162 ページの 348 番「みんなが自分らしく過ごせる豊かな街」はダイバーシティのイメージ。152 ページの 114 番「諦めない瑞浪」と言ってくれる子どもがいるのがうれしい。市民アンケートの自由意見欄には困りごとがたくさん書いてあるので、市職員の方にはじっくり読み込んでほしいと思う。

【事務局】

よく読み込んでいただいて大変参考になった。ターゲットを絞るということについてであるが、本計画の下に子育て支援計画、障害福祉計画など、分野ごとの計画がある。その中で対象の方にアンケートを実施しており、そこでニーズや現状を把握している。

【会 長】

総合計画は最上位計画で、ここでのアンケートは広く市民の声を拾うことが目的である

ため、あえて対象は絞らず 18 歳以上の市民から無作為抽出している。ターゲットを絞ってのアンケートというのは事務局が言ったように個別計画で実施するものである。

【事務局】

市民アンケートでは 175 件の自由意見が寄せられた。直接的な回答は当然できないが、広く周知するため令和元年度から毎年ホームページ等で「市民アンケート自由意見に対する市の考え方」を公表している。整理に時間はかかるが、今回も市の考え方をホームページ等で公表するので、またご覧いただければと思う。市民の方のご意見をよく読み込み、可能な範囲で第 7 次総合計画に反映していきたい。

【会 長】

他にいかがか。

【委 員】

市民アンケートの調査対象者は世帯の名前が書かれたリストからの無作為抽出なのか。それとも住民基本台帳からか。

【事務局】

住民基本台帳から 18 歳以上の市民 1,000 人を抽出している。

【委 員】

年代ごとに、例えば 100 人ずつという形で抽出しサンプリングしていくのか。2 ページの設問 2 で年齢を尋ねているが若い層が異様に少ない。回答者の世代に偏りがあるので、これが全世代の平均的な調査結果と解釈されないよう注意が必要ではないか。10 代、20 代の回答が少ないので「市長と語る会」などで若年層の意見や考えを注意深く吸い上げた方がよいかと思う。

【事務局】

市民アンケートの抽出について回答する。年代で何人という方法は取っていないため、若干の偏りは生じる。また、18 歳以上が対象ということで 10 代は 18 歳・19 歳のみとなり、必然的に少なくなってしまう。ただ、今後 10 年 20 年先を担う若者の意見は第 7 次総合計画の策定にあたって特に重要視している。先般「フューチャーセッション in みずなみ」という学生ワークショップを実施し、それぞれ興味のある分野で独自の意見や提案をいただいた。その内容は次回以降にお伝えしたいと思う。

【会 長】

市民アンケートに関しては世帯ではなく個人をサンプルとしている。一世帯につき一通

という形のアンケートでは、世帯主が回答することが多いため、実態が反映されない可能性がある。今回は個人の回答を求めている点でよかったかと思う。10 代のサンプルが少ないという話もあったが、小中学生にもアンケートを取っており「フューチャーセッション in みずなみ」でも若者の声を聞いているので、多様な方法で意見を収集する工夫をされている。それらを集約し第 7 次総合計画に活かしていただきたい。

他にいかがか。

【委員】

小中学生アンケートの、これからの瑞浪市がどのようなまちであってほしいかという設問で、120 ページを見ると「道路や公園などがきれいに整ったまち」の割合が高い。市民アンケートの 27 ページ「瑞浪市は、必要な道路が整備され、安全で快適に生活ができているまちだと思いますか」という設問に約 5 割が「どちらかといえばそう思う」と回答している。

そこで教えていただきたいのだが、道路の状態はどのくらいの頻度でチェックしているのか。修繕が必要な箇所を見つけた際、すぐに対応されているか。通学路だけではなく歩道に雑草が多いとよく聞くので、どのような頻度でチェックしているかを知りたい。

今回資料をたくさんいただいたが、もう少し早く届けてほしかった。本当に参考になる資料であるため、ゆっくり読みたかった。もう少し早く送っていただけると助かる。

【事務局】

資料については大変申し訳なく思っている。今後は早くお届けできるよう努めていきたい。

また、道路の件について回答する。土木課の職員に限られており、現場に行く中で点検はしているが、それだけでは追いつかない。他部署の職員が通勤途中で見つけた道路の損傷を土木課に伝えると、素早く修繕対応している。そのような体制を整えてはいるので、お気づきの点があれば土木課までご連絡いただくと有り難い。

【事務局】

補足になるが、市内の土木事業者への委託もしているので、危険箇所を放置せず速やかに対応する体制は整えている。

【会長】

市民からの報告も随時受け付けているということで、そうであれば安心かと思う。

(4) 第 7 次瑞浪市総合計画の策定に係る各種アンケート調査結果報告書については以上とする。この調査結果を含めて第 7 次総合計画策定を進めていきたいと思うが、よろしいか。

(異議なしの声)

【会 長】

多くのご意見・ご質問をいただき大変良い会になったかと思う。本日ご発言がなかった方も次回以降は遠慮せずお話しいただければと思うので、よろしく願います。これをもって議事を終了し事務局に進行を返す。

3. その他

【事務局】

慎重審議また貴重なご意見をいただき感謝している。第 7 次総合計画策定にあたり大変参考になるご意見ばかりなので、それを踏まえたものにしていきたいと思っている。

最後に全体を通して質疑等あれば願います。

【会 長】

先ほど資料送付のお話があったが、どのくらい前に送ってほしいなど委員からご要望はあるか。

【委 員】

今回ほどの分量であれば 1 週間くらい前に送っていただければと思う。

【事務局】

1 週間以上前の送付を目指す。

次回の審議会は 10 月下旬を予定している。後日、日程調整を行うが、できれば 10 月の最終週辺りに開催したいと思っているので、よろしく願います。

それでは、これにて第 3 回瑞浪市総合計画審議会を閉会とする。

以上